



くまさんだより 第11号

2021年2月1日発行
新座駅前耳鼻咽喉科

目次

おもて
・のどの癌

うら
・アナフィラキシーについて
・嬉しい話

◇のどの癌について◇

のどは咽頭と喉頭に大きく分けられます。のどの癌には咽頭癌と喉頭癌があり、癌ができた場所によって咽頭癌は『上咽頭癌』『中咽頭癌』『下咽頭癌』の3つに分けられ、喉頭癌は『声門癌』『声門上癌』『声門下癌』の3つに分けられます。喉頭癌の中で最も多いのは声門癌で喉頭癌の半数以上を占めます。のどには発声やものを飲み込む嚥下、呼吸といった重要な機能がたくさんあるため、そこに癌ができてしまうと生活の質が大きく損なわれてしまう可能性があります。

咽頭とは・・鼻と口の奥から食道に至るまでの食物や空気の通り道です。

『症状』

①上咽頭癌

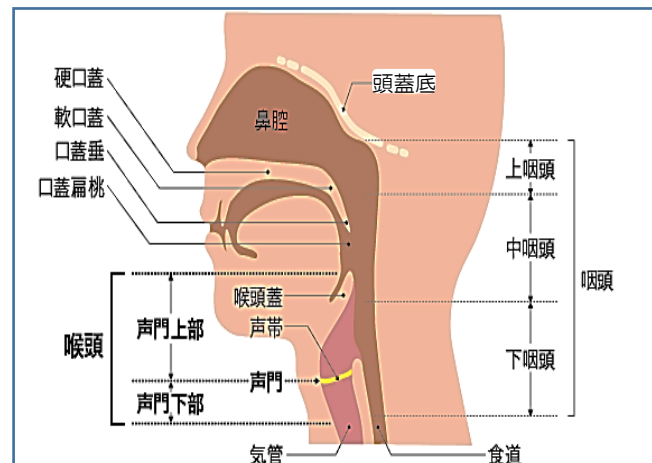
上咽頭癌の発見時に多くみられるのは頸部リンパ節に移転したことによる首のしこりです。その他に鼻の症状（鼻づまり鼻水に血が混ざる）耳の症状（耳閉感・難聴）脳神経の症状（目が見えにくい・二重に見える）などがあります。

②中咽頭癌

食物を飲み込むときの違和感、しみる感じなどです。やがてのどの痛みや飲み込みにくさ、しゃべりにくさなどが少しずつ強くなります。

③下咽頭癌

のどの違和感やつばを飲み込むときのひっかかり感。早期の症状は乏しく、おさまらない咽頭痛、嘔声や吐血、呼吸困難などがあります。



『原因』

主な危険因子は、喫煙と飲酒です。継続的に摂取していると常にのどが刺激されているため、癌の発症リスクが高まります。

『治療』

- ・手術（外科療法）
- ・抗がん剤（化学療法）
- ・放射線治療（陽子線治療や重粒子線治療も含む）
- ・免疫療法…など。

喉頭とは・・いわゆる『のどぼとけ』のことで、気管と咽頭をつないでいます。鼻や口から取り込まれた空気は咽頭から喉頭を通過して気管へ入っていきます。食物は喉頭の働きで気管に入らず、食道へ入っていきます。

『症状』

①声門癌

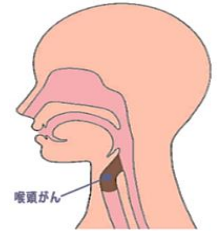
声を出すために必要な声帯に癌ができるため、早い時期から声の異常である嘔声（させい：声がれ）という症状があらわれます。

②声門上癌

のどにいがらっぽさ・異物感や飲食物を飲み込んだときの痛みがあらわれます。他の部位より比較的早期から首のリンパ節が腫れて気付かれることもあります。

③声門下癌

癌が進行するまで症状がないことが多く、進行すると嘔声や息苦しさといった症状があらわれます。進行するまで受診しないことが多いため発見が遅れがちです。



※喉頭癌全体でみると、治癒率は約80%弱です。早期に発見し早期に治療を開始すれば、声帯の機能のある程度は維持できるため、音声を失わずに治すことも可能です。

『予防 / 検診』

予防）

- ・禁煙
- ・節度のある飲酒
- ・バランスの良い食事
- ・身体活動、感染予防が効果的と言われています。

検診）咽頭癌と喉頭癌については、現在定められている検診はありません。気になる症状がある場合には、医療機関を早期に受診することをおすすめします。

◇アナフィラキシーについて◇

アナフィラキシーとは、アレルギーで起こる症状の中で最も重症なもので、主にアレルゲンを吸い込む、食べる、飲み込むことをきっかけに発症します。

アレルギーの症状には皮膚や粘膜系、呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系の症状がありそれぞれの臓器では軽いものから重いものまで様々な症状があります。

アナフィラキシーの特徴の一つは、短時間で症状があらわれることです。症状が出るまでの時間はアレルゲンや患者さんによって差があります。

また、症状が進行することで意識障害や血圧低下など重度な症状が現れることをアナフィラキシーショックと言い、命を落とすこともあります。

皮膚症状	そう痒感、じんま疹、血管運動性浮腫、発赤、湿疹
粘膜症状	眼症状：結膜充血、浮腫、そう痒感、流涙、眼瞼浮腫 鼻症状：くしゃみ、鼻汁、鼻閉 口腔咽頭症状：口腔、口唇、舌の違和感・腫張
消化器症状	腹痛、悪心、嘔吐、下痢、血便
呼吸器症状	咽頭浮腫、嚔声、呼吸困難
全身性症状	アナフィラキシー：多臓器の症状 アナフィラキシーショック：頻脈、虚脱状態（ぐったり）、意識障害 血圧低下

〈検査・診断〉

次の3つの要件のいずれかに当てはまれば、アナフィラキシーと判断されます。

- ①皮膚症状（発疹など）か粘膜症状（唇の腫れなど）のいずれかがあり、急速な呼吸困難、血圧低下、意識障害がみられる場合。
- ②アレルゲンとなり得るものを摂取または接触した後、数分から数時間以内に皮膚・粘膜症状、呼吸器症状、循環器症状、消化器症状のうち2つ以上が確認される場合。
- ③アレルゲンにさらされた直後に平常時血圧の70%未満を基準とする急速な血圧低下がみられる場合。

『症状が出たときに使うエピペンって？』

エピペンとは、注射針が一体型の注射器に薬剤（アドレナリン）が充填された自己注射用のキット製剤です。アナフィラキシーの既往のある人、また発現する危険性の高い人に処方されます。

アドレナリンには、以下の作用があります。

- ・心臓の働きを強めて末梢の血管を締め、血圧を上昇させる
- ・気管支の拡張、粘膜の浮腫を改善させる
- ・症状を引き起こす体内からの化学物質の放出を抑制する…など。



『治療』

〈原因物質の回避〉

アナフィラキシーは即時型アレルギー症状のひとつなので、症状を起こさないためには原因となるものを食べない（接触しない）ことが必要です。

〈有効な薬〉

アナフィラキシーの症状を抑える薬として、即効性があり効果も高いアドレナリンの筋肉注射が第一に選択されます。この他に脱水症状や血圧低下の改善のための点滴、ステロイドや抗ヒスタミン薬の投与などを行い、必要に応じて心肺蘇生を実施します。

『花粉症からアナフィラキシーショックになるの？』

通常、花粉症が原因でのショック症状が誘発されることはありません。
ただし、舌下免疫療法などの治療からショック症状を起こす可能性は無くはないです。



※当院では舌下免疫療法は行っておりません。

嬉しい話

☆60代女性の方より
掛け時計の音楽だったのね
楽しくていいわね♪
(お子さんにも人気のからくり時計です 😊)

☆女性の方より
電話の問合せの際に「こういった時期（コロナ）で大変かと思うけど、お体気をつけてくださいね」と温かいお言葉をいただきました。大変嬉しかったです。